

# 平成 22 年度事業計画及び収支予算

## 事業計画

### 総説

引き続き景気の低迷により閉塞感が社会を覆っており、都税収入も前年度に較べ 1 兆円を越す減収が見込まれ、雇用情勢にもいまだ改善の兆しが見られないなど、一昨年、昨年と国の内外に大きくこだました「チェンジ」を実感するまでに至っていない。社会に先行きに対する不安感が増大する中で、われわれ高齢者を取り巻く環境もさらに厳しさを増していくものと思われる。

このような状況の中で本会は、昨年創立 60 周年を迎え、記念大会を始めとする記念行事の実施、ならびに記念誌の編さん・発行を行ったところである。また、今年度は社団法人となって 60 周年にあたる年でもある。

本会にとって次の 10 年のスタートとなる今年、当会の直面する大きな課題は、まず平成 25 年までに移行を完了させる公益法人改革への対応があり、組織・機構、事業区分、会計基準などの見直し、変更が急がれている。また一昨年実施した昌平橋ビルの耐震強度調査結果を受けてのビル建て替え問題についても、千代田区が主導する外神田一丁目地区の開発コンセプトについての検討動向を見ながら、住宅供給公社、区、都などとの協議を進め、内容の具体化を進めていかなければならない。

さらに、本年 4 月から賃貸面積の 23% を占める大規模テナントの退去により、収入の大幅な減少が避けられない状況に直面している。近い将来の建て替え問題を抱えながら新たなテナントを確保することは容易ではなく、財政運営上大きな困難が生じることが予想される。

以上のような、言わば課題山積のスタートを切る本年、引き続き事業の一層の効率的運営を図り、会員の福利厚生レベルの低下をきたすことのないよう努めることとし、平成 22 年度の事業計画を次のとおり策定した。

## 事業内容

### I. 会 務

#### 1. 定期総会、役員会等の開催

- (1) 定期総会を年1回開催し、会の運営の方針を定めるとともに、秋には大会を開き、会員の交流・親睦を図る。
- (2) 会の事業の円滑な運営を図るため、随時、代議員会、理事会、常任理事会、常任役員会を開催し、重要な案件を審議する。また、必要に応じ顧問・相談役会を開催し、会の運営について意見や助言などを求める。

#### 2. 会報及び会員名簿の発行

会員相互の交流、親睦に資するため、偶数月に交友会会報を発行して、会員の消息、都区政の動向、会の事業運営の状況、各カルチャー、趣味の会の行事予定等を知らせるとともに、広く会員からの投稿を募集して編集掲載する。

また、会員名簿を発行して、会員に配布する。

#### 3. 会員の慶弔

##### (1) 長寿者、勲章受賞者に対する祝賀

喜寿、米寿、白寿を迎えられた会員をお招きして、その労をねぎらい長寿を祝福する。また、叙勲の荣誉に輝かれた会員をお招きして、祝意を表する。

##### (2) 物故会員に対する敬弔

物故された会員に対しては、香典を送り、謹んで弔意を表する。

### II. 行事及び事業

#### 1. 施設見学会の実施

会員の見聞を広めるとともに、その健康の増進に資するため、春、秋の2回施設見学会を実施する。

#### 2. 新年賀詞交歓会及び新入会員歓迎会の実施

例年どおり、1月に新年賀詞交歓会を開催して、新年を祝うとともに、会員相互の親睦交流を図る。また、2月には前年中に入会した新会員の歓迎会を開催する。

#### 3. 相談事業の実施

会員及びその家族を対象として、毎月、法律相談及び税務相談

を実施する。

#### 4. その他主催事業の実施

会員の要望に即し、随時、パソコン教室、健康講座等を開催するほか、囲碁大会、麻雀大会、ゴルフ大会等を実施し、会員の交流と趣味の充実に資する。

#### 5. 各種趣味の会の開催及び助成

会員の自主的な運営による趣味等の同好会（謡曲、小唄、短歌、俳句、麻雀、囲碁、ゴルフ等）及び研究会等の活動を奨励して必要な便宜を供与する。

### III. 公益事業

#### 1. 社会福祉事業等への助成

本会の社団法人であることの公益性に鑑み、社会福祉事業等を行う団体に対し、寄付及び助成を行う。

#### 2. 講演会の開催及び団体に対する後援

(1) 会員等の知識及び教養の向上に資するため、時宜に即した講演会を開催する。

(2) 会員の健康の増進に資するため、財団法人 東京都弘済会主催の「健康増進旅行」「健康増進ウォーキングの集い」等友好団体の活動に対し後援・協力を行う。

### IV. 交友会会館の維持管理及び事務事業の執行

1. 会館利用者及び賃借人の快適な利用及び安全と利便に資するため、随時、施設の点検、整備を行い、管理運営に万全を期する。

2. 大都市退職者団体と友好関係を維持し、新公益法人制度移行に関する情報の交換、協議等を行い、会の発展のため共同して活動する。本年度は当会主催で開催する。

3. その他、事務局執行体制の整備を図り、事務事業の改善効率化に努める。

## 平成 22 年 度 収 支 予 算

### 総括表

(収入)				(支出)				(単位:千円)
科 目	予算額	前年度予算額	増△減	科 目	予算額	前年度予算額	増△減	
<b>I 事業活動収支の部</b>								
事業活動収入	66,314	80,530	△ 14,216	事業活動支出	79,333	83,793	△ 4,460	
1 特定資産 運用収入	655	0	655	1 事業費	53,910	58,370	△ 4,460	
2 会費収入	9,004	9,450	△ 446	2 管理費	25,423	25,423	0	
3 事業収入	46,840	60,000	△ 13,160					
4 寄付金 収入	400	400	0					
5 雑収入	9,415	10,680	△ 1,265	事業活動 収支差額	△ 13,019	△ 3,263	△ 9,756	
<b>II 投資活動収支の部</b>								
投資活動収入	0	4,000	△ 4,000	投資活動支出	6,100	6,100	0	
				投資活動 収支差額	△ 6,100	△ 2,100	△ 4,000	
<b>III 財務活動収支の部</b>								
財務活動収入	0	0	0	財務活動支出	0	0	0	
<b>IV 予備費支出</b>								
				予備費支出	1,000	1,000	0	

### (収支差額)

当期収支差額	△ 20,119	△ 6,363	△ 13,756
前年度繰越 収支差額	13,637	20,000	△ 6,363
次期繰越 収支差額	△ 6,482	13,637	△ 20,119